

第20回 青少年のための科学の祭典・日立大会

小さな鳥の資料館

動画解説書 題名 飛翔 「オオタカとラナーハヤブサの飛行」

昨年の日立大会に参加した外国産のオオタカとラナーハヤブサの飛行を中心に猛禽類の一側面を解説する。

- 1 猛禽類とは ワシタカ・ハヤブサ・フクロウ等、他の生き物を捕食して生活している鳥類それぞれの生息地域で生態系の頂点に位置する。
- 2 タカとハヤブサの違い 元は同じ分類、2012年 形態やDNAの研究が進んだ結果、タカ科とハヤブサ科となった。
- 3 体型の違い
タカ科 翼の先端が丸い 鼻の穴の中に突起なし
ハヤブサ科 翼の先端が尖る 鼻の中に突起あり(図鑑等の説明はない。高速で急降下する時に何らかの働きをしているのではないかと考えられる)
- 4 飛行動画
オオタカ等(オオタカ・ハイタカ・ツミ等のハイタカ属)は林の中を高速で獲物を追いかけて飛行することができる。動画の中でガードレールの下をくぐる場面がこうした能力を示している。
ハヤブサ類は広い空間を高速で飛行し、獲物を急降下して捕える能力がある。アメリカでは急降下時に385キロを記録した動画が紹介されている。
- 5 野生のタカ・ハヤブサ類の飛行写真
トビ 最も一般的な猛禽 腐食性で自然界の掃除屋的な働きがする。
ノスリ モグラやネズミを捕える、トビの次によく見られる。
サシバ 夏鳥で南の国から飛来し、里山等で繁殖する。秋の渡りは有名。
トカゲ、カエル、ヘビ、バッタ、ネズミ等の小動物を捕える。
ハイタカ 小鳥やハト等を捕える。主に冬、山から里に下りてくる個体が多い。
チョウゲンボウ 最も一般的なハヤブサの仲間、ネズミや小鳥を捕える。
チゴハヤブサ トンボを捕える翼の長いハヤブサ。茨城県での繁殖の記録はない。
アカアシチョウゲンボウ 中国大陸で繁殖し、インド洋を超えてアフリカ大陸で越冬する。写真は茨城県で初めて撮影できた個体。迷鳥
コチョウゲンボウ 冬大陸から渡ってくる冬鳥、田んぼの上を高速で飛行しスズメ等を捕える。イギリス等ではマリーンと呼ばれ、鷹狩りに使用されることがある。
- 6 クマタカの飛行動画
クマタカ(Mountain Hawk eagle)は山に住む大型のタカ。昔、山形県や秋田県の農山村では、冬にウサギ等を捕える鷹狩りに使用した。茨城県では県北に生息する。